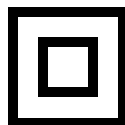


取扱説明書

用途

- コンクリートの穴あけ
- アンカー下穴の穴あけ
- コンクリートのハツリ、破碎、溝掘り、角出し、切断、はがし
- 木材、金属の穴あけ
- 小ねじ、木ねじの締付け

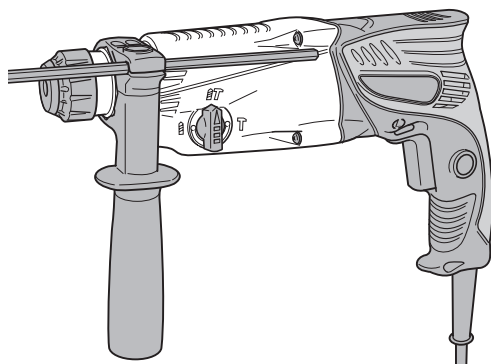
二重絶縁



日立ロータリハンマドリル

18 mm **DH 18PH** [SDSプラスシャンクタイプ]

このたびは日立ロータリハンマドリルをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



電動工具の安全上のご注意	1
二重絶縁について	4
本製品の使用上のご注意	4
各部の名称	5
標準付属品	6
仕様	6
別売部品	7

はじめに

ご使用前の点検	8
工具の取付け・取りはずし	9
サイドハンドルの取付け方	10
デプスゲージの使い方	10
スイッチの操作と回転数の調整について	11
スリップクラッチ機構について	11
回転方向の切替え方	11
作業モードの設定	12
回転+打撃モードを使う	13
回転モードを使う	15
打撃モードを使う	17

使い方

保守・点検	18
ご修理のときは	裏表紙

その他

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠ 警告**」、「**⚠ 注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「**⚠ 注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ 子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ 無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⚠ 警告

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。

- 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。

- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
- 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

⑨ 保護メガネを使用してください。

- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。

- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。

- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。

- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- コードは定期的に点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。
- 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 使用しない、または修理する場合。
- 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
- その他、危険が予想される場合。

警告

⑩ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。

- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⑪ 不意な始動は避けてください。

- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

⑫ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。

- 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

⑬ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑭ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

⑮ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものは、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

⑯ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。ご自分で修理しますと、事故やけがの原因になります。

二重絶縁について

電気の流れる所と外観部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されていることを言います。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されていて感電しにくくなっています。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に  マークで表示してあります。異なった部品と交換したり、間違って組立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。

電気系統の分解、組立や部品の交換はお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに依頼してください。

本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、ロータリハンマドリルとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

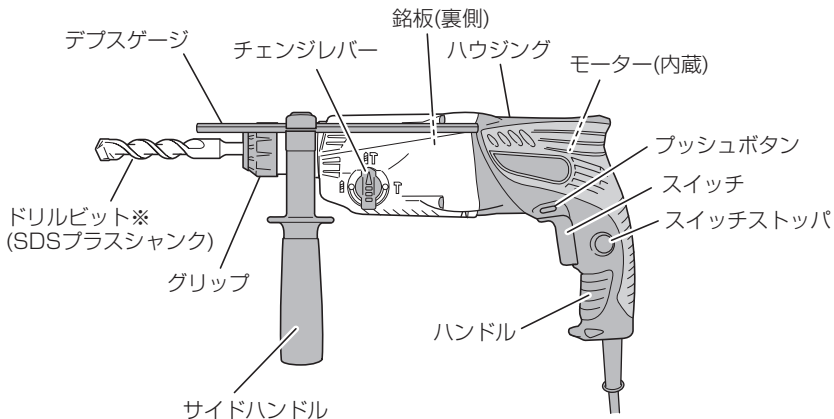
警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
 - 表示を超える電圧で使用すると、速度が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。
 - 埋設物があると工具が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
- ③ 使用中は、振り回されないようにサイドハンドルを付け、機体を両手で確実に保持してください。
 - 確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ④ 使用中は、工具類に手や顔などを近づけないでください。
 - けがの原因になります。
- ⑤ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。
 - そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑥ 誤って落としたり、ぶつけたときは、工具類や機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
 - 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ⑦ シリカや石綿は人体に有害です。このような成分を含んだ材料を加工するときは、防じん対策をしてください。

⚠ 注意

- ① 工具類や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
 - 確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
 - 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
- ③ 作業中は、ヘルメット、安全靴を着用してください。
- ④ 作業直後の工具類は高温になっているので、触れないでください。
 - やけどの原因になります。
- ⑤ 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。
 - 材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑥ 運転させたまま、台や床などに放置しないでください。
 - けがの原因になります。
- ⑦ 作業の際、機体を無理に押しつけないでください。
 - 先端工具を傷めて作業効率が低下するだけでなく、機体の寿命低下につながります。

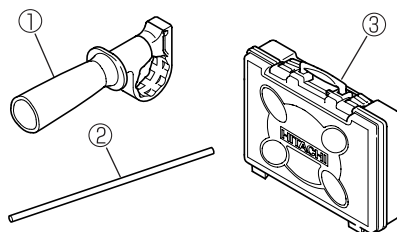
各部の名称



※ドリルビットは別売です

標準付属品

- ① サイドハンドル 1 個
- ② デプスゲージ 1 個
- ③ プラスチックケース 1 個



仕 様

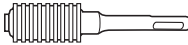
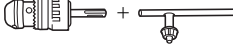
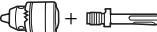
形 名	DH 18 PH
使 用 電 源	単相交流 50 / 60Hz 共用 電圧 100 V
穴 あ け 能 力	コンクリート 18 mm、鉄工 13 mm、木工 24 mm
全 負 荷 電 流	6.5 A
消 費 電 力	620 W
無 負 荷 回 転 数	0 ~ 1400 min ⁻¹ {回/分}
全 負 荷 打 撃 数	0 ~ 5600 min ⁻¹ {回/分}
モ ー タ ー	単相直巻整流子モーター
質 量	2.1 kg (コード、サイドハンドルを除く)
コ ー ド	2 心キャブタイヤケーブル 5 m
振動 3 軸合成値 ^{※1}	回転 + 打撃 18.8 m/s ² ^{※2} 打撃 8.2 m/s ² ^{※2}

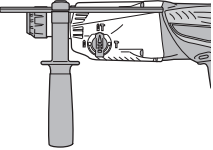
※ 1 : 振動 3 軸合成値 (周波数補正振動加速度実効値の 3 軸合成値) については、JEMA [一般社団法人日本電機工業会]
ウェブサイト : <http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html>
をご参照ください。

※ 2 : 振動 3 軸合成値は、EN60745-2-6 規格に基づき測定しています。

別売部品

用途に応じた先端工具（アタッチメント）をご使用いただくことで、いろいろな作業にご利用できます。詳しくは、お買い求めの販売店または日立工機の全国営業拠点（裏表紙）にお問い合わせください。

	先端工具	接続工具
回転 + 打撃	●コンクリート、タイルの小径穴あけ  細径ビット(φ3.4, φ3.5)	 細径ビット用アダプタ (SDSプラスシャンク)
	●コンクリート、タイルの穴あけ  ドリルビット デルタゴンビット	(上向き作業にて必要に応じ使用)   ダストカップ 集じんカップ(B)
	●アンカ下穴あけ  ドリルビット(テーパシャンク)	  テーパーシャンクアダプタ コッタ
	●コンクリートの穴あけ  ドリルビット(ストレートシャンク)	 13mmハンマドリルチャック
打撃のみ	●アンカー打込み作業  アンカセッター	
	●破砕作業   ブルポイント四角 ブルポイント丸	
	●溝切り・角出し・はがし作業   コールドチゼル カッタ	
	●溝掘作業  グルーピングチゼル	
回転のみ	●ねじ締付け作業   両頭プラスビット マイナスドライバビット	13mmドリルチャック (13VLRB-D)   スペシャルスクリュー チャックアダプタ
	●金属、木材の穴あけ   鉄ドリル(市販品) 木工ドリル(市販品)	



●電動工具用集じん機

この製品は電動工具用集じん機に接続して使用できますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

ご使用前の点検

●漏電しゃ断器の設置

本製品は二重絶縁構造ですので、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

●延長コードを使う場合

電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードをご使用ください。

右表は使用できるコードの太さ（導体公称断面積）と、最大の長さです。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

⚠ 警告

延長コードは損傷のないものを用意してください。

コードの太さ (mm ²)	最大の長さ (m)
1.25	15
2	25
3.5	45

●使用電源の確認

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が故障する恐れがあります。

また、直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

●コンセントの確認

電源プラグをさし込んだとき、コンセントがガタガタだったり、電源プラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。

お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

工具の取付け・取りはずし

⚠ 警告

工具の取付けや取りはずしの際、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

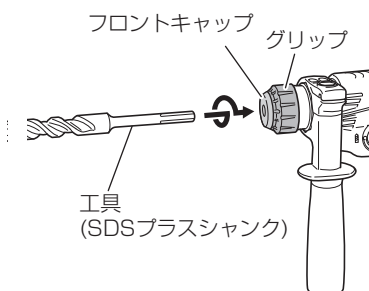
⚠ 注意

工具は当社指定の別売部品を使用してください。
(P7「別売部品」参照)

この機体の工具取付け部はSDSプラスシャンク品専用となっております。
従いまして、SDSプラスシャンクの先端工具または各種アダプタを使用してください。

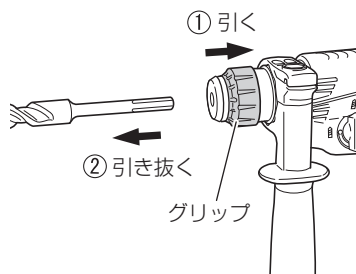
取 付 け

- 1 工具のシャンク部をきれいにふきます。
- 2 工具をフロントキャップの穴に奥に突き当たるまでさし込みます。
- 3 工具を軽く押しながら回していくと、引っ掛かりのある箇所が確認できます。
その箇所では、工具を矢印方向へ奥に突き当たるまで押し込みます。
(工具装着時は、グリップの操作は不要です。)
- 4 確実に工具が固定されたか、工具を引いて確認します。



取 り はず し

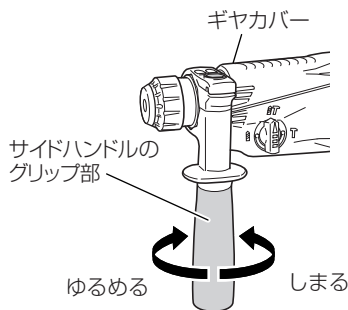
工具を取りはずすときは、グリップを矢印方向へ一杯に引き、工具を引き抜きます。



サイドハンドルの取付け方

- 1 サイドハンドルのグリップ部を回してゆるめ、ギヤカバーに突き当たるまで押し込みます。

- 2 作業に応じて、サイドハンドルを使いやすい角度に調整し、サイドハンドルのグリップ部を回して、しっかりと固定してください。

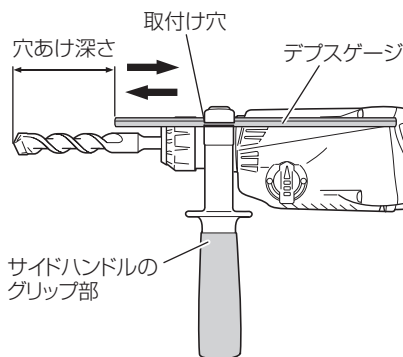


デプスゲージの使い方

付属のデプスゲージは穴あけ深さの調整に用いるものです。同じ深さの穴を連続してあける場合は、能率が上がり、穴の深さが正確になります。

- 1 サイドハンドルのグリップ部を回してゆるめ、サイドハンドルの取付け穴にデプスゲージを通します。

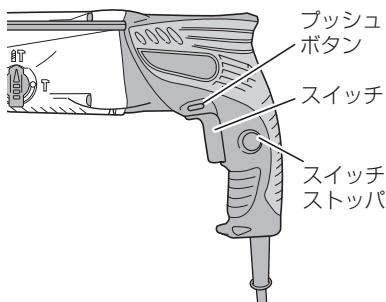
- 2 穴あけ深さに応じてデプスゲージの位置を調整し、サイドハンドルのグリップ部を回してしっかりと固定します。



使
い
方

スイッチの操作と回転数の調整について

- スイッチは、スイッチを引いてからスイッチストッパを押すと、指をはなしても入ったままになり、連続運転に便利です。切るときは、再びスイッチを引いてからはなすとストッパははずれます。
- 回転数は、スイッチの引き方により $0 \sim 1400 \text{ min}^{-1}$ {回/分} まで調整できます。



スイッチを引くにしがって回転が上がリ、いっぱい引いたときに 1400 min^{-1} {回/分} になります。ただし逆転時には、スイッチが半分しか引けず、回転数は正転時の約半分となっています。

スリップクラッチ機構について

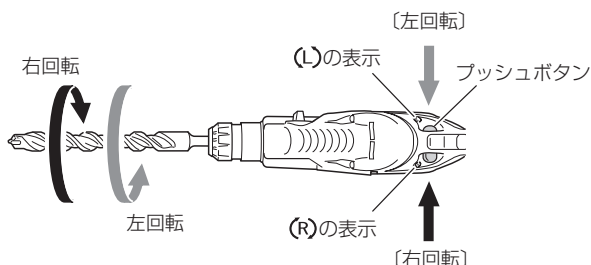
この機構は、作業中の本体に急激に大きな負荷がかかったとき、モーターとビットの間の伝達部をスリップさせて、直接大きな反力がかかることを防止します。

注 スリップクラッチが作動し、ビットの回転が停止した場合には、すみやかにスイッチを切ってください。

回転方向の切替え方

下図のようにプッシュボタンの (R) 側を押し込むと、先端工具はハンドル側から見て右に回り (正回転)、(L) 側を押し込むと左に回ります (逆回転)。

(R) (L) は、ハウジングに表示してあります。



注 運転中はプッシュボタンの切替えができません。切替える場合は、必ずスイッチを切ってから操作してください。

作業モードの設定

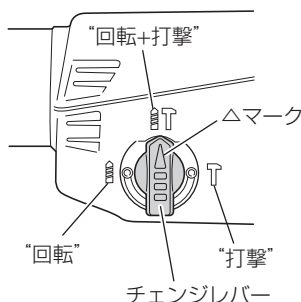
⚠ 注意

- モーター停止時にチェンジレバーを操作してください。
モーターの回転中に切替えると、不意に工具が回り、思わぬ事故の原因になります。
- ハツリ・破碎用工具などは必ず "打撃" の位置で使用してください。
"回転+打撃" の位置で使用すると、工具が回り、思わぬ事故の原因になります。

チェンジレバーを回すことにより "打撃"、
"回転+打撃"、"回転" の3つのモードに
切替えることができます。

作業モードの設定は、チェンジレバーを回し
て△マークを使用するモードの位置に合わせ
ます。

- ⚡ マーク — "回転" モード
- ⚡⚡ マーク — "回転+打撃" モード
- ⚡ マーク — "打撃" モード



- 注**
- "回転" でする作業を "回転+打撃" の状態で行うと穴あけ能率が上がらないばかりでなくドリルを傷めるので、十分注意してください。
 - ねじを締付ける場合は必ず "回転" の状態で行ってください。
 - "打撃" でする作業の場合は、必ずプッシュボタンを正回転の (R) 側に切替えてください。

回転＋打撃モードを使う

コンクリート、アンカ下穴の
穴あけ作業

⚠ 警告

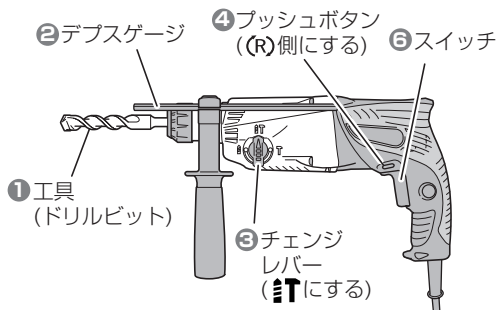
- 工具やデブスゲージの取付け・取りはずしの際、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- サイドハンドルとハンドルをしっかり握って作業してください。
工具が鉄筋などに当たると急に止まり、その反動で機体が回ろうとします。

1 工具を取付ける

P9「工具の取付け・取りはずし」の手順に従い工具を取付けます。

2 必要に応じてデブスゲージを取付ける

(P10「デブスゲージの使い方」参照)



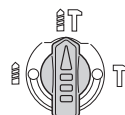
⚠ 注意

作業の際、機体を無理に押しつけないでください。
先端工具を傷めて作業効率が低下するだけでなく、機体の寿命低下につながります。

3 作業モードを"回転＋打撃"に切替える

チェンジレバーを↑↓に合わせます。

(P12「作業モードの設定」参照)

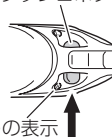


4 プッシュボタンを (R) 側から押す

中間の位置ではスイッチが入りませんので、しっかり押し込んでください。

(P11「回転方向の切替え方」参照)

プッシュボタン

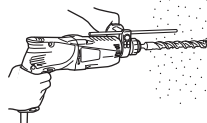


(R)の表示 (R)側を押し込む

5 電源プラグをコンセントにさし込む

6 スイッチを入れる

穴あけ位置に工具の先をあててからスイッチを入れます。

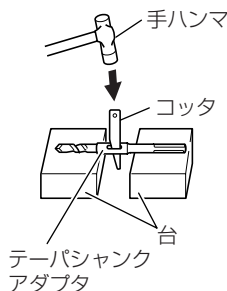


●テーパシャンクアダプタ(別売部品)の使い方

別売部品のテーパシャンクアダプタを取付けますと、テーパシャンクタイプのドリルビットをご使用になれます。

テーパシャンクアダプタをP9の「工具の取付け・取りはずし」と同じ要領で取付けます。次に、ドリルビットをテーパシャンクアダプタに差し込んで使用します。

ドリルビットをテーパシャンクアダプタから取りはずすときは、右図のようにテーパシャンクアダプタの長穴部分にコッタを入れ、コッタの頭を手ハンマでたたいてはずします。



●ダストカップ、集じんカップ(B)(別売部品)の使い方

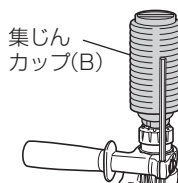
上向き作業をする場合は、ダストカップまたは集じんカップ(B)を取付けますと、切粉の落下が少なく、作業がしやすくなります。

ダストカップは図のように、ドリルビットに取付けてご使用ください。

太径のドリルビットの場合は、ダストカップの中央の穴をドリルビットでひろげてご使用ください。



集じんカップ(B)を使用する場合は、ドリルビットを取付けた後、集じんカップ(B)を図のように先端から押し込んでください。



- 注**・ダストカップおよび集じんカップ(B)は、コンクリートの穴あけ専用です。金属、木材の穴あけには、使用しないでください。
- ・集じんカップ(B)はフロントキャップに密着するよう十分に押し込んでください。
 - ・集じんカップ(B)をコンクリート面からはなした状態でスイッチを入れると、集じんカップ(B)がドリルビットと一緒に回転してしまい、集じんカップ(B)がグリップ部からはずれることがあります。
必ずコンクリート面に押しつけてからスイッチを入れてください。
〔全長190mm以上のドリルビットと共に集じんカップ(B)を使用すると、集じんカップ(B)がコンクリート面に接触せず、回転してしまいます。集じんカップ(B)は全長166mm、160mm、110mmのドリルビット用として使用してください。〕
 - ・粉じんは穴あけ2～3本ごとに捨ててください。
 - ・ドリルビットの交換は集じんカップ(B)をはずしてから行ってください。

回転モードを使う

木材、金属の穴あけ
小ねじ、木ねじの締付け
(別売部品のドリルチャックアダプタセット使用)

警告

- 工具やデプスゲージの取付け・取りはずしの際、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用中、振り回されないように、サイドハンドルとハンドルをしっかりと握って作業してください。

1

ドリルチャックにチャックアダプタを取付ける

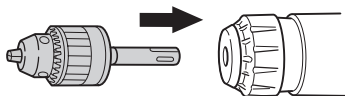


スペシャル スクリュー ドリル チャック チャックアダプタ (SDSプラスシャンク)

2

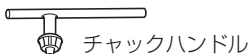
機体にチャックアダプタを取付ける

P9の「工具の取付け・取りはずし」の手順に従い工具を取付けます。



3

市販のドリル(ドライバビット)をチャックハンドルを使ってドリルチャックに取付ける



チャックハンドル

4

必要に応じてデプスゲージを取付ける

(P10「デプスゲージの使い方」参照)

5

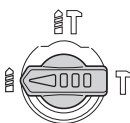
プッシュボタン押して回転方向を合わせる

(P11「回転方向の切替え方」参照)

6

作業モードを"回転"に切替える

チェンジレバーを⬇に合わせます。
(P12「作業モードの設定」参照)

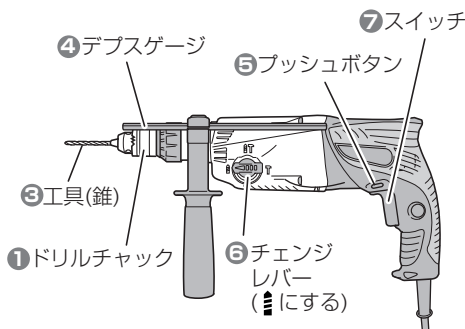
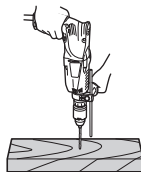


注

チャックアダプタを使用して"回転+打撃"の作業はしないでください。故障の原因になります。

7

電源プラグをコンセントにさし込み、スイッチを入れる



⚠ 注意

- 作業の際、機体を無理に押しつけないでください。
先端工具を傷めて作業効率が低下するだけでなく、機体の寿命低下につながります。
- 穴の抜けぎわにドリルを折ることがありますので、穴の抜けぎわに機体を材料に押しつける力をゆるめてください。

●木材に木ねじを締め付ける

ねじの径より少し細いドリルで下穴をあけておくと木材に割れが入ったりせず、作業がらくにできます。下表を参考にしてください。

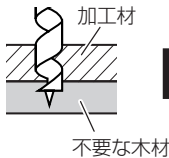
(できるだけプラス溝の木ねじをご使用ください)

木ねじ呼び径(mm)	下穴径(mm)	プラスビットNo.	マイナスビット
3.1	2.0 ~ 2.2	No. 2	4 mm
3.5	2.2 ~ 2.5		
3.8	2.5 ~ 2.8		6 mm
4.5	2.9 ~ 3.2		

●木材にきれいな穴をあける

不用な木材を下に敷き、加工材と一緒にあける

木工ドリルが裏側へ突きぬけるときに発生するバリを防ぐことができます。



または

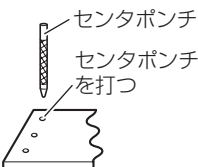
木工ドリルの先が少し裏側に 出たときに、裏側から穴をあける



●金属へ上手に穴をあける

市販のセンタポンチを使用する

鉄工ドリルの先がすべらず、決まった位置に穴あけができます。



さらに

鉄工ドリルの先に機械油か 石けん水を付ける

穴があけやすくなります。

注 金属に穴をあける場合、穴の抜けぎわに大きな力がかかり、錐がキーレスチャックからすべることがあります。このような場合は、工具本体の押しつけ力を弱め、ドリルがすべらないようにしてください。

打撃モードを使う

コンクリートのハツリ・破碎・溝掘り・角出し・切断・はがし

⚠ 警告

- 工具の取付け・取りはずしの際、万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ハツリ、破碎用工具などは必ず"打撃"の位置で使用してください。"回転+打撃"、"回転"の位置で使用する、工具が回り、思わぬ事故の原因になります。

⚠ 注意

作業の際、機体を無理に押しつけないでください。
反動を押さえる程度に押しつけて作業してください。無理に突きさしたり、押さえつけても作業の効率はあがりません。

1

工具を取付ける

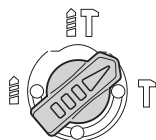
P9の「工具の取付け・取りはずし」の手順に従い工具を取付けます。

2

工具の向きを決める

(コルト・ピル・カッタ等を使用する場合)

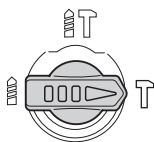
- チェンジレバーを操作し、右図のように↑と↑のほぼ中間に合わせます。
- 工具を回し、作業に適した位置にセットします。



3

作業モードを"打撃"に切替える

チェンジレバーを↑に合わせます。



4

プッシュボタンを(R)側から押す

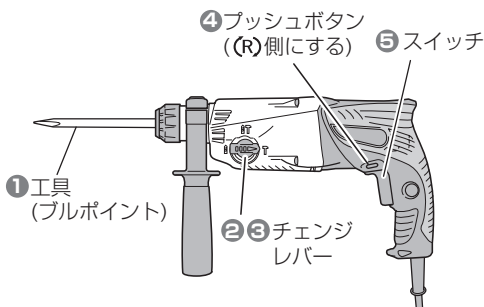
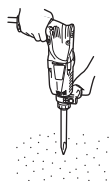
打撃モードで作業する場合は、必ず正回転(R)側に切替えてください。

(P11「回転方向の切替え方」参照)

5

スイッチを入れる

ハツリ・破碎する位置に工具先端を当ててからスイッチを入れます。



保守・点検

⚠ 警告

点検・お手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

●グリースの交換

この機体はグリース密封構造となっていますので、ほこりの侵入を防ぎ、グリースは漏れない構造となっています。従って、長期間無給油で使用できます。
しかし、機体を長持ちさせるために1年ごとにグリースの交換をしてください。

注 機体へ使用しているグリースは特殊グリースです。他のグリースを使用した場合、性能を著しく損なう恐れがありますので、必ずグリースの交換は買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。

●工具の点検

摩耗した工具をご使用になっておりますとモーターに無理をかけることになり、また効率も落ちますから早めに研磨するか新品と交換してください。

●取付けねじの点検

時々点検して、ゆるんでいたら、締直してください。
そのまま使用すると危険です。

●カーボンブラシの交換方法

モーター部には、消耗品であるストップカーボンを使用しております。
カーボンブラシを交換する場合は、決して自分ではなさないで、買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。

●製品や付属品の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- 注**
- ・お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所には保管しない。
 - ・軒先など雨がかかったり、湿気のある場所には保管しない。
 - ・温度が急変する場所、直射日光の当たる場所には保管しない。
 - ・引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所には保管しない。

ご修理のときは

この製品は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自身で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、下記の全国営業拠点にご相談ください。また、部品ご購入の場合や取扱いでお困りの点などについても、ご遠慮なくお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(N0.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号(N0.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

■ 日立工機電動工具センターへのご用命は、下記の営業拠点にお問い合わせください。

北海道支店 TEL (011) 896-1740 (代) 〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目2番20号
東北支店 TEL (022) 288-8676 (代) 〒984-0002 仙台市若林区卸町東3丁目3番36号
関東支店 TEL (03) 5783-0608 (代) 〒108-6020 港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)
中部支店 TEL (052) 533-0231 (代) 〒451-0051 名古屋市西区則武新町1丁目32番16号
北陸支店 TEL (076) 263-4311 (代) 〒920-0058 金沢市示野中町1丁目163番
関西支店 TEL (0798) 37-2665 (代) 〒663-8243 西宮市津門大筋町10番20号
中国支店 TEL (082) 504-8282 (代) 〒730-0826 広島市中区南吉島2丁目3番7号
四国支店 TEL (087) 863-6761 (代) 〒760-0078 高松市今里町1丁目28番14号
九州支店 TEL (092) 621-5772 (代) 〒813-0062 福岡市東区松島4丁目8番5号

「電動工具お客様相談センター」



0120-208822 (フリーダイヤル・無料)

※携帯電話からはご利用になれません。

(土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)

電動工具ホームページ—<http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>



〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)
国内営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)